

# 「いわて県民計画(2019~2028)」

## 第1期アクションプランの 進捗状況について

### I 健康・余暇

P 1~3

- 4 幅広い分野の文化芸術に親しみ、生涯を通じてスポーツを楽しむ機会を広げます
- (4) ライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実 . . . . . P 1
  - (5) 障がい者スポーツへの参加機会の充実 . . . . . P 2
  - (6) 岩手発の「超人スポーツ」の創出等によるスポーツ参加機会の拡大 . . . P 3

### III 教育

P 4~9

- 13 【体育】児童生徒の健やかな体を育みます
- (1) 豊かなスポーツライフに向けた学校体育の充実 . . . . . P 4
  - (2) 適切な部活動体制の推進 . . . . . P 5
  - (3) 健康教育の充実 . . . . . P 6
- 19 文化芸術・スポーツを担う人材を育てます
- (3) アスリートの競技力の向上 . . . . . P 7
  - (4) 障がい者アスリートの競技力の向上 . . . . . P 8
  - (5) スポーツ医・科学サポートを通じた競技力の向上 . . . . . P 8
  - (6) スポーツ活動を支える指導者等の養成 . . . . . P 9

### IV 居住環境・コミュニティ

P 10~11

- 26 文化芸術・スポーツを生かした地域をつくります
- (2) スポーツを生かした人的・経済的な交流の推進 . . . . . P 10

# I 健康・余暇

生涯を通じた心身の健康づくりを進め、地域の保健医療提供体制の充実や福祉コミュニティづくりなどにより、子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も、こころと体の健康を実感でき、また、文化芸術活動やスポーツ活動、学びの機会を充実することにより、余暇の充実を実感できる岩手の実現に向けた取組を展開します。

## ○ いわて幸福関連指標の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R2)	実績値 (R2)
スポーツ実施率	%	61.7	③ 65.0	① 64.0	65.3

※ 太枠の指標は、岩手県スポーツ推進計画（2019年3月）と共通の指標になります。

スポーツ実施率は、ライフステージに応じたスポーツ教室の開催や総合型地域スポーツクラブへの活動支援など、市町村や関係団体と連携し、スポーツを楽しむ多様な機会を創出したことなどから、目標値を達成しました。

## 4 幅広い分野の文化芸術に親しみ、生涯を通じてスポーツを楽しむ機会を広げます

### （基本方向）

県民が心身ともに健康的に暮らせるよう、身近な地域でスポーツ活動ができる総合型地域スポーツクラブの活性化などを通じて、若年期から高齢期までのライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実を図ります。

また、障がい者スポーツの一層の推進を図るため、障がいのある人もない人も共に楽しむスポーツ大会や教室の開催などを通じて、障がい者のスポーツへの参加機会の充実や障がい者スポーツの理解促進に取り組みます。

さらに、年齢や身体能力、障がいの有無等に関わらず、県民一人ひとりがスポーツに取り組む新しい地域社会を創造するため、岩手発の「超人スポーツ」の創出等により、スポーツへの参加機会を広げます。

## (4) ライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実

### ① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R2)	実績値 (R2)
総合型地域スポーツクラブ会員数 (地域全戸加入を除く)	人	③⑩ 11,628	12,500	12,060	12,954
県営スポーツ施設の利用者数	万人	112	120	116	61

- 総合型地域スポーツクラブ会員数（地域全戸加入を除く）は、総合型地域スポーツクラブによる積極的な募集や広域スポーツセンターと連携した周知活動等を進めたことにより、目標値を達成しました。
- 県営スポーツ施設の利用者数は、新型コロナウイルス感染症による一時休館や各種大会等の中止、無観客試合等の影響などにより、目標値を達成できませんでした。

## ② 課題

- 家庭や地域、企業が一体となり、ライフスタイルに合わせてスポーツを楽しめる環境づくりが必要です。
- 地域の子どもたちのスポーツ活動を広げる受け皿として、総合型地域スポーツクラブ等の充実を図ることが必要です。
- 様々な年代の健康づくりに関するニーズへの対応と、健康づくりに対応できる人材育成が必要です。
- 利用者の安全性・利便性の更なる向上と、県営スポーツ施設の計画的な維持管理・修繕、更新等が必要です。
- コロナ禍における県民のスポーツを楽しむ環境の整備が必要です。

## ③ 取組方向

- 「いわて健康経営認定事業所」等へ健康運動指導者やアスレティックトレーナー等の派遣による健康教室の実施（10団体程度）に取り組みます。
- 子どもたちのスポーツ活動受入れ体制の整備に向けて、総合型スポーツクラブにおいて、運営・指導を担う人材の育成を支援します。（(公財)日本スポーツ協会アシスタントマネージャー等の資格取得）
- いわてアスレティックトレーナー養成により、県民の健康づくりに対応できる人材の育成に取り組みます。
- 個別施設計画に基づく県営スポーツ施設の計画的な維持・改修の実施に取り組みます。
- 競技団体等に対する操作研修会の開催及び機材の無償貸与による大会映像配信の実施に取り組みます。（年間30日程度）

## ⑤ 障がい者スポーツへの参加機会の充実

### ① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R2)	実績値 (R2)
障がい者スポーツの 教室・大会の参加人数〔累計〕	人	2,954	12,640	6,200	4,326
障がい者の受入・活動支援を行う スポーツ関係団体数〔累計〕	団体	8 <sup>⑩</sup>	20	14	17

※ 太枠の指標は、岩手県スポーツ推進計画（2019年3月）と共通の指標になります。

- 障がい者スポーツの教室・大会の参加人数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、県障がい者スポーツ大会や、各種教室が中止となったことなどから、目標値を達成できませんでした。
- 障がい者の受入・活動支援を行うスポーツ関係団体数は、競技団体や総合型地域スポーツクラブにおいて障がい者とともに楽しむスポーツ教室等を実施したことから、目標値を達成しました。

## ② 課題

- 障がい者が、年代に関わらず、身近な地域で自らの興味・関心、適性等に応じスポーツを楽しむ機会を更に増やすことが必要です。
- 障がい者団体のほか、総合型地域スポーツクラブや競技団体等との連携が必要です。

## ③ 取組方向

- 障がい者のスポーツ参画機会の充実に向け、関係団体、市町村、学校等との連携による障がい者のスポーツ機会の創出を推進します。
- 障がいのある人もない人も共に楽しむ機会の充実のため、総合型クラブや競技団体と連携したモデル事業の実施に取り組みます。

# ⑥ 岩手発の「超人スポーツ」の創出等によるスポーツ参加機会の拡大

## ① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R2)	実績値 (R2)
超人スポーツ ワークショップ参加者数〔累計〕	人	69	280	140	237
超人スポーツ オープンセミナー参加者数〔累計〕	人	③⑩ 40	260	110	212

- 超人スポーツワークショップ参加者数は、ワークショップ開催方法の見直しを行うなど参加しやすい環境整備に努めたことなどにより、参加者が増えたため、目標値を達成しました。
- 超人スポーツオープンセミナー参加者数は、セミナー開催に係る周知強化を図ったことなどにより、参加者が増えたため、目標値を達成しました。

## ② 課題

関係団体等と連携し、超人スポーツの普及促進を図るとともに、継続的な取組を推進するため、民間主導にシフトしていく必要があります。

## ③ 取組方向

ワークショップの開催（NPOへの委託）などを通じ、超人スポーツの普及を進めるとともに、民間主導の取組を促進していきます。

## Ⅲ 教育

学校教育の充実や国際交流、文化・スポーツ、産業などの様々な分野での人づくりを進めることにより、将来を担う子どもたちの心豊かな学びや生きる力の高まりを実感でき、国内外や地域社会の様々な分野で活躍する人材が育っていると実感できる岩手の実現に向けた取組を展開します。

### ○ いわて幸福関連指標の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R2)	実績値 (R2)
体力・運動能力が標準以上の 児童生徒の割合	%	小 男子 73.6	75.0	74.0	—
		小 女子 82.9	83.0	83.0	—
		中 男子 77.7	78.0	78.0	—
		中 女子 91.3	91.5	91.5	—

※ 太枠の指標は、岩手県スポーツ推進計画（2019年3月）と共通の指標になります。

体力・運動能力が標準以上の児童生徒の割合は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全国体力・運動能力、運動習慣等調査が中止となったため、全ての実績値が測定できませんでした。なお、令和2年度においては、望ましい運動習慣の形成に向けて「希望郷いわて元気・体力アップ60運動」の推進を図るとともに、各校の要望に応じて指導主事を派遣するなど、よりよい授業づくりの支援に取り組みました。

## 13 【体育】児童生徒の健やかな体を育みます

### （基本方向）

児童生徒一人ひとりが自らの体力や健康に関心を持ち、運動に親しむ資質や能力を身に付けることができるよう、学校体育の充実や適切な部活動の推進などにより、体力の向上と健康の保持・増進に取り組みます。

### (1) 豊かなスポーツライフに向けた学校体育の充実

#### ① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R2)	実績値 (R2)
運動やスポーツをすることが好きな 児童生徒の割合	%	③〇 89	89	89	—

- 運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全国体力・運動能力、運動習慣等調査が中止となったため、実績値は測定できませんでした。
- なお、令和2年度においては、望ましい運動習慣の形成に向けて「希望郷いわて元気・体力アップ60運動」の推進を図るとともに、各校の要望に応じて指導主事を派遣するなど、よりよい授業づくりの支援に取り組みました。

## ② 課題

- 児童生徒の実態を把握しながら、各学校における個別指導を含めた体力向上に向けた取組を改善する必要があります。  
児童生徒が「よりよい運動習慣」「望ましい食習慣」「規則正しい生活習慣」を身に付けるために、学校と家庭・地域が連携を図った取組の充実を図る必要があります。

## ③ 取組方向

- 運動（遊び）やスポーツに親しむ習慣を身に付けさせるため、学校・家庭・地域が連携・協働し、「希望郷いわて 元気・体力アップ60運動」などにより、「よりよい運動習慣形成」「望ましい食習慣の形成」「規則正しい生活習慣形成」について一体的な取組を推進します。  
また、児童生徒がスポーツの意義や価値を学び、スポーツへの興味・関心を一層深められるよう、体育授業の改善などに取り組みます。

## 2 適切な部活動体制の推進

### ① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R2)	実績値 (R2)
部活動の活動方針について、学校、保護者、外部指導者等が、共通理解を図る部活動連絡会を開催している学校の割合	中	80.2	100	90	79.5
	高	—	100	80	93.3

- 部活動の活動方針について、学校、保護者、外部指導者等が、共通理解を図る部活動連絡会を開催している学校の割合は、新型コロナウイルス感染症の影響により、関係者が参集する形での開催実績は目標値を下回ったため、中学校の目標値を達成できませんでした。
- なお、令和2年度においては、部活動連絡会の書面開催等により共通理解を図る取組を実施しました。

## ② 課題

- 中学生のスポーツ・文化活動に係る研究会が、「望ましい活動・環境の姿の実現」に向け、各主体に求められる役割・取組を令和3年3月に取りまとめた提言等を踏まえた適切な部活動指導体制の構築や地域部活動への転換の推進が必要です。

## ③ 取組方向

- 適切な部活動体制の推進に向けて、中学校の休日の部活動の段階的な地域移行を図る実践研究（2地域で実施）、「生徒本位の有意義な活動の在り方」の普及啓発、研修会の開催等により周知、部活動指導員の配置等に取り組んでいきます。

### ③ 健康教育の充実

#### ① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R2)	実績値 (R2)
「定期健康診断」の肥満度が正常である児童生徒の割合	%	小 <sup>③〇</sup> 88.1	91	89	86.7
		中 <sup>③〇</sup> 86.2	89	87	85.2
喫煙飲酒の指導を含めた「薬物乱用防止教室」を開催している小学校の割合	%	73.7	100	100	85.1

- 「定期健康診断」の肥満度が正常である児童生徒の割合は、望ましい運動習慣の形成に向けた「希望郷いわて元気・体力アップ60運動」に取り組んだものの、適切な食習慣、生活習慣の確立に向けた取組を、望ましい運動習慣と一体的に関連づけながら効果的に推進できなかったことなどを一因に、「肥満」の割合の増加に加え、「やせ」の出現率に減少が見られなかったため、小学生、中学生ともに目標値を達成できませんでした。
- 喫煙飲酒の指導を含めた「薬物乱用防止教室」を開催している小学校の割合は、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を中止した学校があったため、目標値を達成できませんでした。なお、令和2年度においては、啓発資料やポスターを配付し、効果的な薬物乱用防止教育の実施を支援しました。

#### ② 課題

- 運動する児童生徒とそうでない児童生徒の二極化がみられる中で、全国に比較し小中学生で肥満傾向児の出現率が高いことから、生活習慣病など健康リスクを未然に防止するため、低年齢から自ら考え判断できる力を養っていく必要があります。
- 薬物乱用防止教室開催の必要性について、すべての学校において共通理解が図られ、実施していない学校に対して働きかけが必要です。

#### ③ 取組方向

- 軽度肥満児童とその保護者を対象とした「岩手型肥満解消資料ぺっこアプローチ」及び食習慣啓発資料「もうぺっこ噛みましょう！」の活用をより一層推進し、小学校における指導の更なる充実を図り、肥満の改善に取り組みます。
- 肥満傾向児が増加傾向である中高生に対して、指導用資料「岩手っ子カラダ改革☆LAFF Challenge!」を活用し、指導の充実を図るとともに、家庭や地域と連携して肥満改善に向けた取組ができるよう啓発を行い、今後とも適度な運動習慣、望ましい食習慣、基本的な生活習慣の形成・定着の推進を図ります。
- 生涯にわたって健康的な生活を送るために必要な力の育成に向け、学校・家庭・地域が連携・協働し、肥満要因の分析による個別指導モデルの実践等により健康の保持増進への理解を深めることに取り組みます。
- 小学校における薬物乱用防止教室の進め方についてリーフレットを作成し、活用の推進に取り組みます。

## 19 文化芸術・スポーツを担う人材を育てます

### (基本方向)

スポーツを担う人材を育てるため、アスリート、障がい者アスリートの各種競技大会や強化合宿への参加を支援するとともに、スポーツ活動を支える指導者等の養成、スポーツ医・科学サポートを推進します。

### ③ アスリートの競技力の向上

#### ① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R2)	実績値 (R2)
国民体育大会天皇杯順位	位	③〇 東北1位	東北1位	東北1位	—
本県関係選手の日本代表選出数〔累計〕	人	40	112	56	45

※ 太枠の指標は、岩手県スポーツ推進計画（2019年3月）と共通の指標になります。

- 国民体育大会天皇杯順位は、新型コロナウイルス感染症の影響で、国民体育大会（鹿児島県）が延期となったため、実績値は測定できませんでした。
- 本県関係選手の日本代表選出数は、いわてスーパーキッズ発掘・育成事業やトップアスリートの活動支援などにより、目標値を達成しました。
- なお、令和2年度においては、アスリートの競技力向上のため、県外遠征等の活動費を支援したほか、「岩手スポーツアスリート無料職業紹介所」を設置し、アスリートの県内定着に向けた就職マッチング等に取り組みました。

#### ② 課題

- 日本代表に続く層のアスリートに対する活動費（強化合宿・大会参加費等）の支援が必要です。
- 本県在住のアスリートの確保・定着に向け、県内企業への働きかけが必要です。
- 用具の性能が成績に直結する競技は最新競技用具への更新が必要です。（整備が必要な種目：ボート、セーリング、カヌー、自転車、ライフル射撃）

#### ③ 取組方向

- 日本代表及び日本代表入りできる能力を持つアスリートの活動費（強化合宿・大会参加費等）を支援していきます。
- 「岩手スポーツアスリート無料職業紹介所」による県内就職の支援をすることにより、アスリート雇用企業の開拓と県内就職を希望するアスリートの発掘に取り組みます。
- 老朽化した競技用具を、R2年度から4か年で集中的に最新の競技用具に更新し、競技団体へ貸し出すことにより競技力強化を推進します。

#### (4) 障がい者アスリートの競技力の向上

##### ① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R2)	実績値 (R2)
障がい者アスリートの育成研修会参加選手数〔累計〕	人	14	84	38	72
ジャパンパラ競技大会出場選手数〔累計〕	人	7	30	14	—

- 障がい者アスリートの育成研修会参加選手数は、県内の競技団体や中学校、県立学校等への事業周知を図った結果、目標値を達成しました。
- ジャパンパラ競技大会出場選手数は、新型コロナウイルス感染症の影響で、ジャパンパラ競技大会（陸上競技、水泳競技）が中止となったことにより、実績値は測定できませんでした。なお、令和2年度においては、障がい者トップアスリートの競技力向上のため、強化選手を指定し、遠征や強化練習等の経費を支援しました。

##### ② 課題

- 若年層アスリートの発掘や育成環境の整備が必要です。
- 選手の経済的負担遠征費等の軽減や、アスリートの特性（障がいの程度等）に応じた競技用具の整備が必要です。

##### ③ 取組方向

- 関係競技団体と連携し、複数競技に取り組む機会を創出するとともに、パラアスリートコーディネーターによる訪問活動（競技団体、所属先（学校、企業等））を通じ、選手発掘と育成環境の整備を推進します。
- 強化選手を指定し、県外遠征・強化事業等の経費を支援するとともに、アスリートの特性等に応じた高性能なパラリンピック競技用具の整備（重度障害者用ボッチャ競技用具）に取り組めます。

#### (5) スポーツ医・科学サポートを通じた競技力の向上

##### ① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R2)	実績値 (R2)
スポーツ医・科学サポート団体数〔累計〕	団体	90	382	185	186
アスレティックトレーナー等登録者数	人	90	114	93	96

- スポーツ医・科学サポート団体数は、スポーツ医・科学の知見を持ったトレーナーを活用して、競技団体のみならず地域の健康づくり教室等への派遣を積極的に行ったことにより、目標値を達成しました。
- アスレティックトレーナー等登録者数は、医・科学の知見に基づいたトレーニングへのニーズの高まりにより、資格取得者が増え、目標値を達成しました。

##### ② 課題

- 体力測定等データ活用の分野において、急速に進む技術革新の動向を踏まえた最新情報の提供が必要です。

### ③ 取組方向

- スポーツデータ活用ワーキンググループにおいて、先進事例調査を実施し、データ活用によるアスリート支援の方向性について検討します。
- 競技団体等へのトレーナー派遣により、アスリートに対するコンディショニング等のサポートを実施していきます。

## (6) スポーツ活動を支える指導者等の養成

### ① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R2)	実績値 (R2)
公認スポーツ指導者資格登録者数	人	③〇 2,701	2,850	2,775	2,927
公認障がい者スポーツ指導者資格登録者数	人	225	300	270	257
スポーツ推進委員研修会参加率	%	③〇 43.6	50.0	50.0	—

- 公認スポーツ指導者資格登録者数は、資格取得のための講習会の開催、資格取得にかかる経費補助などにより資格登録者が増えたことから、目標値を達成しました。
- 公認障がい者スポーツ指導者資格登録者数は、新型コロナウイルス感染症の影響による移動や外出自粛等のため、障がい者スポーツ指導員養成講習会の参加者数が減少し、公認障がい者スポーツ指導者資格登録者数の増加に繋がらず、目標値を達成できませんでした。なお、令和2年度においては、感染症対策を講じながら講習会を実施するとともに、参加者増加に向けてホームページやSNSを活用した情報発信に取り組みました。
- スポーツ推進委員研修会参加率は、新型コロナウイルス感染症の影響で、研修会を開催出来なかったため、実績値は測定できませんでした。なお、令和2年度はスポーツを支える人材を育成するため、「いわてアスレティックトレーナー（IAT）」の養成に取り組みました。

### ② 課題

- 公認スポーツ指導者の資格取得のための講習会等を通じ、理論に基づく指導ができる指導者の育成が必要です。
- 障がい者スポーツ指導員の全体的な発掘、養成が必要です。
- 競技団体の要望に対応できるトレーナー養成や、女性アスリートに対する同性トレーナーのサポート体制の充実が必要です。

### ③ 取組方向

- アスリートの競技力向上を担う指導者の資質向上を目指し、国体監督の条件となる競技別指導者資格取得の支援、全国トップレベルの指導者による研修、日本代表の指導経験のあるトップコーチの専門研修への派遣、女性アスリートの指導者を対象としたスポーツ医・科学研修会、競技団体の指導者を対象に、スポーツ・インテグリティ（誠実性・健全性・高潔性）の確保に向けた研修会等を実施していきます。
- 障がい者スポーツ活動を支える指導者の育成を目指し、スポーツ指導員養成講習会を開催し、初級障がい者スポーツ指導員に対するフォローアップを実施していきます。
- IAT第3期生の養成を通じ、スポーツ医学などの講義、テーピングなどの実習による養成を実施し、サポート人材を育成していきます。

## IV 居住環境・コミュニティ

居住環境の整備や日常生活に必要な交通手段の確保などにより、住まいの快適さや暮らしやすさを実感でき、また、多様な主体の連携や異なる文化、県内外の人的・経済的な交流などにより、暮らし続けたい、帰りたいと思える地域のつながりを実感できる岩手の実現に向けた取組を展開します。

### ○ いわて幸福関連指標の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R2)	実績値 (R2)
文化・スポーツ施設の入場者数 (スポーツ施設入場者数) ※1	万人	805	806	806	—

※1 県及び県内市町村の公立スポーツ・レクリエーション施設入場者数

文化・スポーツ施設の入場者数（スポーツ施設入場者数）は、調査結果が確定していないため、実績値は測定できませんでした。なお、令和2年度においては、消毒液を設置するなどの感染症対策を行い、利用者が安全安心に施設利用できるよう環境整備を行いました。

## 26 文化芸術・スポーツを生かした地域をつくります

### （基本方向）

スポーツを生かした地域活性化を図るため、ラグビーワールドカップ2019™や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを継承し、スポーツイベントの誘致・開催をはじめとしたスポーツツーリズムの拡充などを通じて、人的・経済的な交流の拡大に取り組みます。

### (2) スポーツを生かした人的・経済的な交流の推進

#### ① 具体的政策推進方策の状況

指標名	単位	現状値 (H29)	計画目標値 (R4)	年度目標値 (R2)	実績値 (R2)
スポーツ大会・合宿・イベントの参加者数〔累計〕	人	130,000	594,000	310,000	227,814
県内トップ・プロスポーツチームによるスポーツ教室等の参加者数〔累計〕	人	3,771	15,500	7,690	6,810

※ 太枠の指標は、岩手県スポーツ推進計画（2019年3月）と共通の指標になります。

○ スポーツ大会・合宿・イベントの参加者数〔累計〕は、新型コロナウイルス感染症の影響により、合宿や、全国規模の大会、イベントの中止が相次いだことから、目標

値を達成できませんでした。なお、令和2年度においては、リモート開催による合宿相談会や、いわてスポーツコミッションHPを活用した県内のスポーツ施設の情報発信を行いました。

- 県内トップ・プロスポーツチームによるスポーツ教室等の参加者数は、新型コロナウイルス感染症による参加自粛等の影響により、目標値を達成できませんでした。

## ② 課題

- RWC2019岩手・釜石開催や東京2020大会を契機とした国内外との交流の継続や、本県への興味・関心の持続・拡大が必要です。
- RWC2019大会を契機としたラグビーファンの定着と拡大に向けたラグビーの普及に資する取組が必要です。
- 大会や合宿地としての認知度向上に向け、大規模大会の開催などを通じて、幅広い情報発信によるPR活動が必要です。
- スポーツアクティビティの創出・普及に向け、各市町村で実施している事業の磨き上げや、事業のPRを担う人材の養成が必要です。
- 県内トップ・プロスポーツチームが持つ発信力や、各選手の高いスキルを生かした、スポーツ機運の創出や観光PR等が必要です。

## ③ 取組方向

- 東京2020大会終了後のホストタウン交流に向けた、市町村の取組を支援します。
- いわて・かまいしラグビーメモリアルイベントを開催し、ファンゾーン等での復興情報の発信や県産品等の提供に取り組み、ラグビーを通じた本県のPRを推進します。
- 岩手県ラグビー協会と連携しファン拡大等に取り組みます。
- いわてスポーツコミッションWebサイトや、リーフレット（今年度内容更新）等を活用し、新たに整備した施設等のPR活動を実施していきます。
- 豊かな自然を生かしたスポーツアクティビティの更なる普及を目指し、地元宿泊事業者と連携し、地域一体となった情報発信等により、誘客促進に向けた取組を実施していきます。
- 県内トップ・スポーツチームと連携し、冠ゲームや、スポーツ教室、健康づくり教室等を継続実施していくとともに、いわてまるごと売り込み隊との連携による県外試合会場での本県の観光等のPR活動を実施していきます。